

見上げれば夏

風のない昼に干されたシャツの肩 誰かに触れてほしかった気配

間奏の終わりを待てずイヤホンを外した午後に風が通った

耳慣れぬアナウンスにも呼ばれてる気がして止まる知らない駅で

黙るたび風味を増してゆく距離感 消費期限じゃなくてよかった

あと五分 伸ばした日傘の角度だけふたりの間に傾いた影

二分後に発車と光る電光板 遅れる自由に憧れている

ページには湿気が移る読めぬまま気配のように 見上げれば夏

ファミレスの紙ナプキンを畳む癖 正しさばかり選んでしまう

秒針が遅れて聞こえた屋下がり 会わない理由を考えながら

呼吸とは境界のない沈黙と 同義とされる朝に気づいて

しってたよ言葉が全部うしろ向き わたしの口も うしろにひらく

手のひらが机に貼りつくそのたびに別のことばを選びなおした

ノートには書かないことが増えてきた まちがいじゃない沈黙もある

ばらけた髪ゆびで束ねて結わうときほどけた気持ちが少しだけ好き

時刻表見てるふりして心では今じゃないバス待っているかも